学習内容報告書 フォーマット

学校名	広島県福山市立鞆の浦学園
授業者	山口　悠，村上理恵，宮原美也子，九十九陽子

1.　単元計画

TOMOの磯　わくわく発見プロジェクト　～　パート１　～

＜第１次＞　学習の見通しと課題意識をもち，発信に向けた準備を行う

【第１・２時】　これまでの学習を振り返り，見通しと課題意識をもつ

【第３～６時】　チームごとに，発信に向けた計画を立てる（ラーメン，歌，ゲーム）

【第７～１４時】自分の課題をもち，調べる

＜第２次＞　海自慢を発信する

【第１５～１８時】発信のための準備

【第１９・２０時】発信を行う

＜第３次＞　まとめと振り返り

【第２１時】活動の振り返り

【第２２時】お礼の手紙を書く

【第２３・２４時】模造紙にまとめる

TOMOの磯　わくわく発見プロジェクト　～　パート２　～

＜第１次＞　学習の見通しをもつ

【第２５時】昨年度の学習を思い出す

＜第２次＞磯探検（1回目）を行う

【第２６時】磯探検の計画を立てる

【第２７～２９時】探検を行う（共通体験）

【第３０時】採集したものの活用方法を考える

＜第３次＞　磯探検（２回目）を行う

【第３１・３２時】海洋生物の飼育方法について知る

【第３３～３５時】探検を行う（共通体験）

【第３６～４５時】自己課題をもち，調べる

＜第４次＞　学びを発信する

【第４６～５１時】調べて分かったことを伝える

＜第５次＞　まとめと振り返り

【第５２～５６時】これまでの学びを模造紙にまとめる

TOMOの磯　わくわく発見プロジェクト　～　パート３　～

＜第１次＞　わかめの養殖体験

【第５７～６２時】わかめの植え付け体験を行う

＜第２次＞　わかめの生育観察

【第６３～６５時】わかめの生育状況を観察する

＜第３次＞　わかめの収穫体験

【第６６～６８時】わかめの収穫体験を行う

＜第４次＞　今後に向けて

【第６９・７０時】今後の学習について考える

1-1.　単元名

TOMO の磯　わくわく発見プロジェクト

1-2.　学年

１～９年生

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

自立活動，生活単元学習（知的学級のみ），生活（知的学級のみ）

1-4.　単元の概要

１　地域の自然環境を生かし，水産資源を活用した体験的な学習の実施

身近な海に対して興味関心をもつことができるよう，磯探検や磯遊びなど，海に親しむ活動を繰り返し取り入れる。また，わかめの養殖体験や，磯や海で採取した生き物の飼育，磯で拾った貝やシーグラスを活用したアクセサリーの制作や販売など，体験活動を重視した探究活動を展開する。さらに，一連の学習過程において，水産資源を守るために地域で働く人々の苦労や思いにも触れ，地域への誇りや愛着を高めるような単元を構成した。

２　地域の人材や専門機関との連携を図った単元構成

個々の児童生徒の探究心に応じた学習を展開するため，地域の諸機関や人材に協力を仰ぎ，連携しながら学習を深め，実践する仕組みを組織する。この地域と連携した取組によって児童生徒は，学校の中だけでは学習できないことや本物の学びを体験することができるようになる。また，漁業協同組合や地域の活性化に携わっている地域の人々と連携し，実際にかかわることで地域のよさを実感することができ，地域課題の解決に向けた取組を考え行動しようとする意欲をはぐくむ学習活動となっている。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

本学園は瀬戸内海に隣接する鞆の浦に位置し，豊富な地域素材や人材に恵まれている。そこで本単元では，身近な海を素材とした学習を設定し，「海の豊かさを知り，発信する」という活動を通して，海に親しみながらその実態を知り，地域の人々との関わりを通して海の豊かさを実感し，「海を守る」ために自分にできることを考え実践していこうとする態度を育てる。また，SDGｓの視点を取り入れ，地域や地球全体が抱える課題や未来について考える学習を通して，主体的に生き地域に貢献する児童生徒を育成することをねらいとする。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

〇課題発見・解決能力：様々な体験学習を通して，ふるさとの海について興味関心をもち，関わろうとする。

〇情報活用能力：海産物や海洋生物について調べたり作品にしたりして，ふるさとの海の豊かさを発信する。

〇コミュニケーション能力：地域のよさや課題，地域人材に興味関心をもち，関わろうとする。

〇郷土愛：地域に愛着をもち，地域のよさを実感するとともに，海の豊かさを守ろうとする。

1-7.　単元の展開（全７０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
14	TOMOの磯　わくわく発見プロジェクト ～　パート１　～ ○これまでの学習を振り返り，これからの学習の見通しと課題意識をもつ ＜発信に向けて＞※前年度からの取組の続き ◎「ラーメン」チーム ・販売に向けた計画を立てる ・商品名，袋のデザイン，価格の決定 デザインの決定 ・宣伝シールやちらし，抽選券の作成・配布 ・会場準備（看板，机，椅子，釣銭など） 協力して会場準備 ・役割分担 ◎「歌」チーム ・歌，体操（動き）の確認・練習 ・録画 音楽室での練習 ◎「ゲーム」チーム ・すごろくのマスの内容や並びを決める ・実際にやって修正しながら完成させる すごろく作り 	○前年度，未実施の学習活動からスタートする。 ○これまでの学習を振り返り，新メンバーでのチーム分けを行う。 ・写真をもとにまとめた，成果物の活用 ・自己決定の場の設定 ・関係諸機関と連携し， 「ラーメン」：漁業協同組合，食品会社，印刷会社，ラーメン店，特産品販売店，新聞社，フリーマガジン 「歌」：漁業協同組合，広告代理店，デザイナー 「すごろく」：漁業協同組合，デザイナー ○高学年を中心に，チーム内で協力して準備に取り組めるよう見守る。 ○予定表やカレンダーを活用して，進捗状況の可視化に配慮して学習を進める。 ○国語科社会科，算数科，図画工作科，音楽科，体育科，家庭科など，学習過程において他教科の学習内容との関連をもたせ，必要に応じて教科を超えた学びを実施する。 ラーメンの宣伝シール作成（社会科） ラーメン販売場所の看板の作製（図画工作科）
6	＜発信する＞ ◎「ラーメン」チーム ・販売 ・取材 完成したわかめラーメン ラーメンの販売 ◎「歌」チーム ・DVD の作製，上映（校内，市役所，地域） ・他校への送付（学びの交流）	○「相手意識」や「目的意識」を明確にして，常に確認しながら学習を進める。 ラーメン販売時に実施した新聞社と雑誌社からの取材

	◎「ゲーム」チーム ・すごろくの印刷 ・すごろくの校内展示や来客への配布などを通してのPR活動	○学びの発信方法についてチームでの話し合いをもとに実現に向けて支援し，児童生徒の学びを広く発信することで，自己肯定感や自信につなげる。 ○写真や感想をもとに学習の過程をまとめた模造紙を校内に常時掲示して，学習の振り返りや他学年との学びの交流に活用する。
4	＜振り返り＞ ◎「ラーメン」チーム ・売上（純利益）の計算，報告 ・売上金の使途についての話し合い ・外部関係者へのお礼 売上金の計算 ◎「歌」チーム ・自分のDVDのオリジナルジャケットを作成して学びを可視化する ◎「ゲーム」チーム ・休憩時間等を活用して遊ぶ すごろく遊び	○発信相手や関係者の方々との交流を通して，感謝の気持ちをもたせるとともに，達成感や次の活動への意欲につなげる。 お礼のメッセージ ラーメン完成の報告とお世話になったお礼 ○成果物の他校とのやりとりを通して，自分の成長を実感するとともに，他校での取組を学ぶ機会とし，交流の輪を広げる。 ○年間を通して，自分達の学びの発信目的や方法について考えさせる。 ・軽トラ市（月に一度開催される地域の朝市）での紹介，配布 ・校内での常時掲示や作品展示 （学びの可視化，交流） ○これまでの学習を通して感じた自分の成長をまとめる。
1	TOMOの磯　わくわく発見プロジェクト ～　パート２　～ ○これまでの学習を振り返り，これからの学習の見通しと課題意識をもつ。	○学習の成果物を見ながら，昨年度の学習内容を想起させる ○自分達が知っていることや学習してきたことを共有し，自分達の地域（海）に興味をもたせる
5	＜海や磯のことについて話し合う＞ ○磯探検に出かけ，地域の磯について知る。 ・生き物 ・海藻 ・シーグラス ・ごみ ムラサキウニを発見	○磯探検でやりたいことを話し合い，探検の準備を行う（自分達で話し合って考えさせる）。 ・準備物，めあて，ルール　　など ○安全に留意して磯探検を実施する。 ○探検後の学習活動について，児童生徒自身に考えさせることで，今後の学習の見通しや課題意識につなげる。

	○採集したものの活用の仕方を考える。 ・生き物　→　飼育する ・海藻　→　見当たらない　→　どうして？ ・シーグラス　→　小物作り ・ごみ　→　モニュメントの制作	○海藻の有無については，時期を変えて磯探検を行うことで，季節による変化に気付かせる。
15	○海洋生物の飼育の仕方について知る。 ・死んでしまった原因の究明 ・漁業協同組合の組合長さんの話 ・海水の作り方 ・えさ ・酸素 ・バクテリア ・水槽の管理の仕方 海洋生物の飼育のポイントを教えてもらう ○２回目の磯探検を行い，自分の学びを決める。 ２回目の探検でも，たくさんのものを発見 ◎「生き物」チーム ・海洋生物の飼育・観察 ◎「海のアクセサリー」チーム ・シーグラスや石などを使ったレジンアクセサリーの作製 採集したたくさんのシーグラス ◎「水質調査」チーム ・海水の水質調査 ・ごみの収集とごみモニュメントの作製 ○チームごとに，学習を進める。 ◎「生き物」チーム ・水槽の管理，海洋生物の飼育（お墓づくり） ・名前や生態，特徴の調査 ・「生き物カード」の作成 ・生き物カードを集約した「パンフレット」の作成 ・えさやりの当番決め ・「なんでもボード」の設置による情報共有や疑問の解決 定期的な掃除	○生き物の飼育の失敗経験から，海洋生物の飼育に必要な基礎的知識について知る必要性に気付かせる。 ○魚について詳しい人から話を聞く機会を設定する。 ○１回目の探検の振り返りや疑問などをたくさん出させ，解決するための方法を考えさせる。 ○自分達の学びの目的は SDG s 14 とつながることに気付かせ，「海の豊かさを守ろう」を今後の学習の合言葉として活用する。 ○一人一人の探究活動が進むように，個別に支援を行いながら児童生徒の様子を見守る。 ○定期的に，それぞれのグループの進捗状況を確認・交流しながら学習を進める。 水槽を水族館に見立てて付けた名前 PH 紙を使っての水質検査 採集した生き物の名前や特徴の調査 死んでしまった生き物のために作ったお墓

	「なんでもボード」を活用した情報共有，情報交換 ◎「海のアクセサリー」チーム ・レジンアクセサリーの製作 ・アクセサリーの展示・販売計画 一つ一つ心を込めてつくったアクセサリーの数々 ◎「水質調査」チーム ・海洋ごみの収集，モニュメント製作 ・海水の水質調査，実験	調べたことや観察して分かったことをまとめた生き物カード 異学級・異学年の児童生徒間での疑問や感想の交流の場として活用されている「なんでもボード」 生き物カードを並べて，水族館のパンフレットを作成
6	○学びの発信を行う。 ※合言葉「海の豊かさを守ろう」 ◎「生き物」チーム ・水槽の公開，生き物の紹介 ・飼育観察経験からのエピソードの紹介 ・タブレットに収めている画像や動画の紹介 ・生き物カードやパンフレットの配布 ◎「海のアクセサリー」チーム ・アクセサリーの展示・販売 ・作り方の説明 ◎「ごみ・水質調査」チーム ・収集したごみの展示 ・海水の水質調査（場所による比較）結果報告 ・試薬を使った水質実験の体験コーナーの特設	○保護者参観日（１回目），公開研究会（２回目）を活用して，学びを発信する場とする。 ○当日の役割分担や動きは児童生徒に全て任せ，グループの仲間と協力して自分達の力で PR 活動が行えるよう配慮する。 ○同様の学習の場を２回設定することで，安心感と自信につなげ，達成感をもたせる。 ○１回目の終了後，グループごとに振り返りを行い，２回目の活動に生かせるようにする。 ○事前に漁業協同組合と連携して組合長さんに来校していただき，学習内容について評価やアドバイスをしてもらうとともに，わかめの養殖への思いも語ってもらい，次の活動（わかめの養殖体験）へつなげる。
5	○振り返りを行う ・これまでの学習を振り返り，まとめる ・鞆の海を守るために，自分ができることを考える ・わかめの養殖体験に興味関心をもつ	○保護者や地域の人々，来校者からの肯定的な他者評価を得ることで，自己肯定感や自信につなげる。 ○わかめの養殖と，「鞆の海の豊かさを守る」活動がつながることを意識付ける。

6	TOMO の磯　わくわく発見プロジェクト ～　パート３　～ ○わかめの幼芽の植え付け体験を行う。 ・わかめの幼芽の観察を行う ・やり方の説明を聞き，体験する ・体験したことをまとめ，感想やお礼の気持ちを伝える	○漁業協同組合の組合長さんから，わかめの養殖について話を聞き，体験学習を行う。 ○体験を通して，わかめの栽培の仕方を知るとともに養殖の大変さや苦労について知る。
3	○わかめの成長を確かめる。 ・画像や動画を見て，成長の様子を知る ・刈り取った後の活動について，話し合う 去年のわかめとは全然大きさが違う・・・どうしてかな？	○色画用紙で作った実寸大のわかめを提示し，昨年度の同時期のわかめの成長と比較して，今年度の成長具合を知らせる。 ○漁業協同組合のフェイスブックの画像や文章を紹介し，昨年度と比べてわかめの生育状況が著しく劣っていることを知らせ，原因や「海の豊かさを守る」ために自分達ができることについて考えさせる。 ○刈り取り後の学習活動について，自分達で調べたり考えたりさせて，今後の学習への見通しをもたせ課題設定につなげておく。
3	○わかめの刈り取り体験を行う。 ・わかめの刈り取り体験を行い，今年度のわかめの成長について知る ・湯通しと乾燥を行う ・体験したことをまとめ，感想やお礼の気持ちを伝える 	○収穫の喜びを味わうとともに，漁業協同組合の組合長さんから養殖や漁業に携わる人々の思いを聞き，今年度のわかめの様子について知る。(昨年度との比較) 今年度の収穫時のわかめ 昨年度の収穫時のわかめ
2	○刈り取ったわかめの活用方法や今後の学習について考える。 ・鞆の浦産わかめを使ったものの商品化（足りない分は他地域のもので補う） ・生育不良の原因について調べる ・海の環境（ごみ）について調べる ・海の環境を守るための漁業協同組合の取組について学ぶ ・地元の産業（漁業）について知る	○今回のわかめの生育状況を受けて，自分たちにできる学びを考える。 ○漁業協同組合と連携して，今後の学習へつなげる。

2. 学習活動の実際

「海の豊かさを守るため」には，自分達の学びを周囲に発信する必要があると考え，グループごとに工夫をして発信方法を話し合った。そこで，参観日と公開研究会の実施に合わせて，これまでの学習活動の学びを発信することにした。事前に発信できる機会は二回あることを伝えて見通しをもたせたうえで，当日の動きや内容については児童生徒に任せ，教職員はそばで見守ることにした。

一回目は，保護者を対象とし，何をしてよいか分からずに立っているだけの児童や，特定の児童生徒に全て任せて何もしない児童の姿も見られた。しかし，保護者やグループ内の児童生徒からの声かけで，来校者に自分から声をかけたり，グループ内で役割を分担して説明したりできるようになっていった。そして終盤には，高学年を中心に，二回目の発信に向けて持ち場の確認や役割の分担をすることを提案するなど，自分達で考えて動く姿が見られた。

二回目は，他校の教職員を対象とし，前回の反省を生かして来場者に自分から挨拶をして声をかけ，自分たちの思いや学びを堂々と話す姿が見られた。また，来校者からの質問に対して返答するだけではなく，「SDGs14 番の・・・」「鞆の海は・・・」「今のままでは・・・」など，学習したことをもとにふるさとの海の環境保全に向けた思いを懸命に伝えていた。

さらに，学びをまとめる際には，活動を振り返ることによって自分達の学習が漁業協同組合の人々をはじめとする，地域の多くの人々によって支えられていたことにも気付いた。

単元における位置づけ

単元　［ ７０ ］　時間中の　［ 47・50 ］　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-1. 本時の目標

これまでの学習を通して学んだ「鞆の海」のよさや課題について，発信する。

2-2. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
○これまでの学習を振り返り，当日の活動や内容について考える。 ＜生き物チーム＞ ・みんなに水槽の生き物のことを知らせたい ・鞆の海の楽しさやすばらしさを伝えたい ＜海のアクセサリーチーム＞ ・アクセサリーをみんなに見てもらって買ってもらいたい ＜ごみ・水質調査チーム＞ ・鞆の海にごみがあることを知ってほしい ・みんなに水質調査をしてもらって鞆の海の現状を知ってほしい	○早い段階で参観日や研究会があることを伝え，児童生徒の学びの発信に対する意欲喚起につなげておく。 ○対象は変わるが，二回とも同じ学習活動を行うことを知らせ，安心感と見通しをもたせる。 ○一回目の学習の様子を動画や写真で提示して，反省を次に生かすようアドバイスを行い，次回への意欲や自信につなげる。

○自分たちの学びを発信する。

＜めあて＞
鞆の海のことをみんなに伝えよう！

（相手）保護者，地域の人，来校者
（目的）鞆の海の現状を知ってもらう
SDGｓ14 を呼びかける

○伝える内容や方法を考えて活動する
（チームごと）

＜生き物チーム＞
- 水槽に SDGｓ14 のロゴを貼った理由や思いを伝える
- 水槽の生き物を紹介する
- 飼育観察を継続して，気が付いたことやおもしろかった生き物の様子を伝える
- 記録したタブレットの画像や動画を紹介する
- 生き物カードやパンフレットを配って説明する

＜海のアクセサリーチーム＞
- アクセサリーの展示や販売をする
- 用途が分かるように，売り場に写真を貼って説明する
- 作り方や商品の説明をする
- 作っている時の気持ちを伝える

＜ごみ・水質調査チーム＞
- 収集したごみがあった場所や状況を説明する
- 水質調査の結果報告を一覧表にまとめる
- 海水を用意して，試験紙を使った水質実験の体験コーナーをつくる

○振り返りを行う。
- 感想や来校者の人達からの感想を交流して，自分達の学びを振り返る

○SDGｓ14「海の豊かさを守る」ために活動していることを確認し，相手意識や目的意識をもたせる。
○役割分担や発信方法は児童生徒に全て任せ，グループの仲間と協力して自分達の力で活動が行えるよう配慮する。
○他教科で学んだ力を活用して，コミュニケーションを図る。
☆自分達の学びを伝えるための発信方法や内容を，多面的に考え，表現している。（行動観察）

学びの発信

どんな水が魚にとっていいのかな？鞆の海の水は・・・漁業協同組合の組合長さんから現在の鞆の海水のことや海洋ごみについて教えていただきました。

○来校者からの感想やメッセージを伝え，達成感につなげる。

3.　今回の活動の自己評価

○児童生徒にとって身近な存在である海を素材に，地域人材や機関との連携を図りながら豊かな体験活動を通じて，児童生徒に海の恵みや豊かさを実感させることができた。また，前年度の学び（海の環境保全や海藻について）の成果物として児童生徒が作製した「磯図鑑」が，地域の企業の協力で製本・増刷され，市内の図書館を始め国立国会図書館に寄贈され，地域貢献につながった。

○探検や製作・販売活動などの体験活動を繰り返し行うことで,「海の豊かさを守るために」意欲的な児童生徒の姿が見られるようになってきた。

○単元目標や内容を，SDGｓと関連付けながら学習を行ったことで，自分達の学びをグローバルな視点でとらえ,「世界の海は　つながっている」と意識を他地域や世界に広げることができた児童生徒もいた。また，海洋生物の飼育観察を通して，継続飼育の大変さや責任，命の大切さを実感することにつながった。さらに，校内に水槽を設置したことで他の児童生徒との交流の場が生まれ，水槽の維持や海洋生物のことについて「なんでもボード」を通して行うやりとりによって,「海の豊かさを守ろう」という考えが学年や学級を超えて広まった。

○地域の人材と連携した学習を展開し，校内や地域に向けて自分達の学びを発信したことで児童生徒の学習意欲や自己肯定感が育成され，学年・学級を超えた友達や地域の人々とのつながりに広がりや強まりが見られた。また，それらが「地域の活性化」という地域課題の解決に向けた取組ともなって，地域貢献につながった。

○児童生徒の学習の成果物（レジンアクセサリーやＤＶＤ，すごろくなど）の発信を通して，他校へも「海の豊かさを守ろう」と啓発することができた。また，互いの学びを交流することで視野を広げたり，自分達の学びを振り返り新たな課題を発見したりするきっかけとなった。

○学習過程の随所で漁業協同組合を始め関係機関の方々に関わっていただき，児童生徒の学びを「ラーメン」や「DVD」などの形にすることができた。

4.　今後の課題

○児童生徒の特性や実態を考慮し，それらに合わせたねらいや学習内容の検討を行うとともに，地域素材を生かした海洋教育の単元計画を作成し，学習活動の連続性が図れるよう取り組む。

○今後も継続して地域の諸機関や人材との連携による出前授業や体験活動を充実させて学習の目的や場面などに応じて効果的に位置付け，児童生徒の探究がより深まるように工夫する。

○今後も，海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童生徒の育成をめざす。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した単元ごとに作成してください。
※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
※基本レイアウト
　　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm
※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。
　　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1
※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。